

一般質問



基幹産業の 振興について

動させていく取組みとは具体的にどういう取り組みか。

充実を図ります。

策事業の補助、緊急雇用対策事業、緊急雇用創出推進事業及び森林整備担い手対策推進事業等を実施しています

いう名称に変更したが、名前を変えるだけでなく立派な芝ざくらを咲かせるという基本は忘れないで欲しい。

知度を高めるため公園の名称を芝ざくら滝上公園に変更し、芝ざくら再生に向けて除草作業の増員等管理体制の充実を図ります。

それから、道の駅に観光協会事務所を移転し観光拠点にすべく道の駅の改修し、関係機関と連携した観光客誘致に係るPR活動等に

策事業の補助、緊急雇用対策事業、緊急雇用創出推進事業及び森林整備を行い手対策推進事業等を実施しています。

▲吉田商工観光課長▽

緊急雇用創出推進事業は平成25年度2件で新規雇用は3名です。緊急雇用対策事業は25年度700人工とい

いう名称に変更したが、名前を変えるだけでなく立派な芝ざくらを咲かせるという基本は忘れないで欲しい。

雇用もなかなか人数が揃わない、担い手を開発していくなければならないのではないか。

又、この施政方針を町民に周知する考えはあるか。

用関係で240人工予算措置しておる次第であります。

△高橋林政課長△
森林整備担当毛
推進事業の人数は

森林整備担い手対策
推進事業の人数は7社
で45名です。26年度も
45名計上しております

四、今まで申し上げた事が全て循環型の産業振興に繋がっている取り組みということをご理解願います。

平成26年度施政方針の産業振興についてお聞きします。

二、有機的に連携・連

ています

三、緊急雇用奨励対

ノ岩嶋講員

平成26年度施政方針
の産業振興についてお
聞きします。

整備と今年から草地基盤整備等を実施します。ソフト面では経営強化のための資金の融資利子の補助と新規就農対策の補助等を取組ん

農家に供給している。農産物の一部は加工して商品化され、一次から3次産業の連動・連携が早くから図られており、現在に至つてい

四、今まで申し上げた事が全て循環型の産業振興に繋がっている取り組みということをご理解願います。

岩崎議員

明渠整備、雜用水施設

^長屋町長^

平成26年度施政方針 の産業振興についてお 聞きします。

整備と今年から草地基盤整備等を実施します。

農家に供給している。農産物の一部は加工して商品化され、一次から3次産業の連動・連携が早くから図られて

四、今まで申し上げた事が全て循環型の産業振興に繋がっている取り組みということをご理解願います。

施政方針は予算が議決された後、昨年と同様に町民の皆様に解りやすい冊子を今年も配付します。

一般質問

渚滑川の観光客誘致のためニジマスの放流を行っているが、生物の多様性保全に関する条例が北海道で打ち出され、その中にニジマスも規制の対象に含まれている。このようなく中今後、放流事業をどのように進めていくのか聞きたい。

今後もNPO法人渚滑川とトラウトを守る会等と連携しながら放流事業が継続されるよう取り組んで参りたい。

今後もNPO法人渚滑川とトラウトを守る会等と連携しながら放流事業が継続されるよう取り組んで参りたい。

このような振興^{ヒョウ}を続けるためにも、ニジマスを指定外来種に選定しないように北海道等に要請活動を行つております。

チアンドリリース条例を全国で初めて制定し、まして釣りによる観光振興に取り組んできました。

放流事業の 今後について

興策として毎年渚滑川にニジマスの放流を行つてきます。平成21年には滝上町渚滑川魚

外来種リストから外す
ような方法を考えてい
かなければならぬと
思うが如何か。

主な漁上町に関連する北海道ブルーリスト種

| 区分 | 分類 | 種名 | 被害の実態・おそれ | 道内分布 |
|-----|----|------------|--------------------|------|
| A 2 | 魚類 | ニジマス | 在来種との競合・駆逐、交雑 | 全道各地 |
| A 2 | 昆虫 | カブトムシ | 在来種との競合、駆逐 | 全道各地 |
| A 2 | 植物 | オオハンゴンソウ | 在来植物との競合・駆逐、大群落を形成 | 道内各地 |
| A 2 | 植物 | コウリンタンポポ | 在来植物との競合・駆逐 | 道内各地 |
| A 2 | 植物 | シロツメクサ | 在来植物との競合・駆逐 | 道内各地 |
| A 2 | 植物 | フランスギク | 在来植物との競合・駆逐 | 道内各地 |
| A 2 | 植物 | セイタカアワダチソウ | 在来植物との競合・駆逐 | 道央など |

※ブルーリストとは？

少野生生物のリストが「レッドリスト」とされていることを踏まえて、ブルー（青色）とレッド（赤色）を対照的に捉え、外来種のリストを「ブルーリスト」と命名した。

又、当リストでは外来種の状況や、影響の有無などによりA～Kまで区分し、対策の優先度に応じ、A1～A3に細区分している。